

## 施策5-1 観光資源となる魅力の再発見と磨き上げ

### 1 施策推進に向けた平成29年度の実績（主な進捗状況） ★は政策推進プランに掲げる目標値等

#### ●福岡の歴史資源の観光活用

##### 博多旧市街プロジェクトの推進

- ・分かりやすいまち歩きモデルコースの設定 H29n: 2 コース
- ・旧市街統一デザインによる観光案内板等の改修 H29n: 29 基
- ・出来町公園観光拠点施設の整備公募実施

★外国人来館者数（「博多町家」ふるさと館、はかた伝統工芸館、福岡アジア美術館）

H28n: 26,736 人 → H29n: 30,323 人

- ・「博多町家」ふるさと館及びはかた伝統工芸館の来館者数 H28n: 244,447 人 → H29n: 228,101 人

##### 鴻臚館・福岡城への集客向上に向けた取組み

★鴻臚館跡整備基本計画を検討

★福岡城南丸多聞櫓の保存修理工事、石垣総合調査及び南丸発掘調査を実施

- ・福岡城むかし探訪館来館者数 H28n: 30,913 人 → H29n: 30,557 人
- ・三の丸スクエア来館者数 H28n: 58,819 人 → H29n: 81,554 人
- ・鴻臚館展示館来館者数 H28n: 25,917 人 → H29n: 25,655 人

★外国人来館者数（福岡城むかし探訪館、三の丸スクエア、鴻臚館）H28n: 31,141 人 → H29n: 45,520 人

##### 観光視点での元寇防塁の魅力向上

- ・元寇防塁駐車場利用促進のための案内板・誘導板設置数 H29n: 8 基

##### サイクルツーリズム振興による志賀島周辺の集客促進

- ・志賀島周辺エリア内でのレンタサイクル利用者数 H28n: 2,106 人 → H29n: 4,304 人

##### 文化財の観光資源としての活用促進

- ・吉武高木遺跡「やよいの風公園」での開催イベント数 H28n: 1 → H29n: 5

#### ●魅力の磨き上げ

##### アジアと創る新たな魅力づくり（アジアンパーティ） <再掲7-3>

- ・クリエイティブフェスタの来場者数 H28n: 約 64,000 人 → H29n: 約 85,000 人
- ・アジアフォーカス・福岡国際映画祭来場者数 H28n: 40,286 人 → H29n: 35,553 人

##### 祭りの魅力発信

- ・ユネスコ登録記念イベント「祭 WITH THE KYUSHU」来場者数 H29n: 約 18 万人

##### 集客交流拠点としての美術館の魅力向上 <再掲1-4>

- ・ハード・ソフト両面でのリニューアルを実施（H29.6 から改修工事に着工）

##### 集客交流拠点としての福岡アジア美術館の魅力向上 <再掲1-4>

- ・7階ラウンジに蔵書を配架した「アートカフェ」を整備
- ・1階エントランスにアジアの作家による壁画を設置

★外国人来館者数（福岡アジア美術館）H28n: 4,892 人 → H29n: 7,076 人

##### 博物館機能の歴史文化資源としての価値向上

- ・「新春特別企画 黒田家の刀剣と甲冑展」（H30.1.7～H30.2.12） 観覧者数: 14,693 人

★外国人来館者数（博物館） H28n: 5,198 人 → H29n: 7,938 人

**ふくおかの“食”の磨き上げ <再掲6-4>**

- ・海外のシェフ等との商談回数 H28n : 4回 → H29n : 5回

**動植物園再生事業 <再掲4-4>**

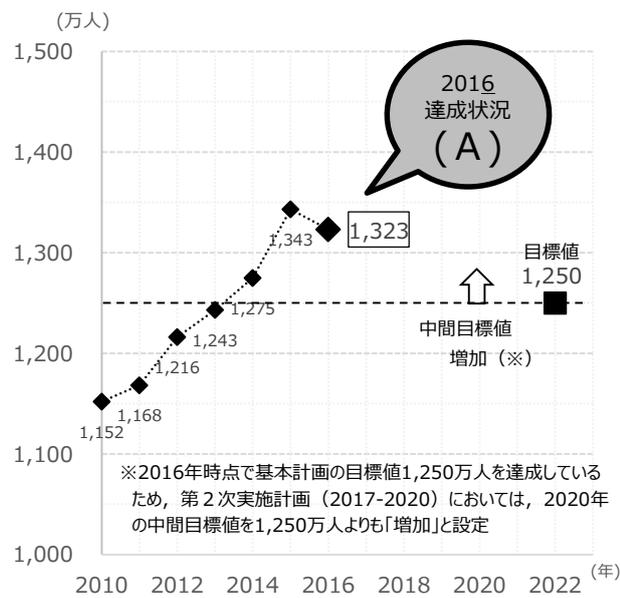
- ・エントランス複合施設の建設工事を継続

**特色ある公園づくり事業（高宮南緑地） <再掲4-4>**

- ・旧高宮貝島家住宅を含む高宮南緑地の整備・管理運営を行う事業者公募を開始

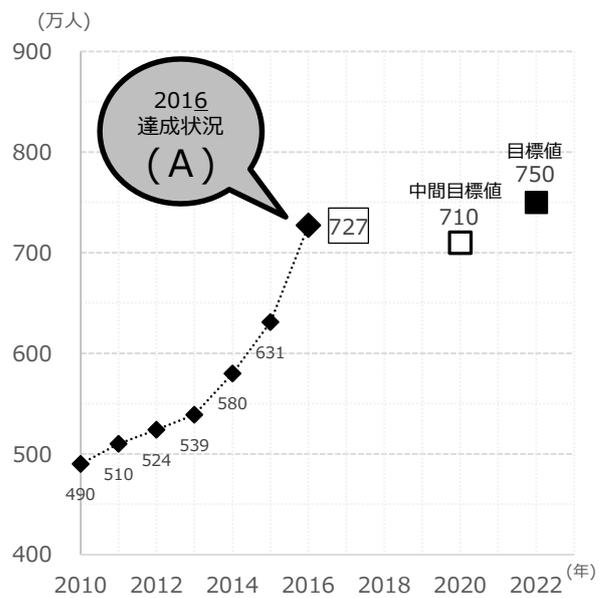
**2 成果指標等の動向**

①入込観光客数（日帰り）



出典：福岡市観光統計

②入込観光客数（宿泊）



出典：福岡市観光統計

**<指標の分析>**

指標①は減少しているが、入込観光客数全体（日帰り+宿泊）は前年比3.9%増の2,050万人に増加しており、日帰り客から宿泊客にシフトしていると考えられる。

指標②は、航空路線の拡充やホテルの増加、観光・MICEの積極的な誘致・受入などの影響により、大幅な増加となっている。

**3 施策の評価**

◎：順調	[参考]前年度 ◎：順調
------	-----------------

#### 4 取組の進捗状況・課題と今後の方向性

##### ●福岡の歴史資源の観光活用

博多旧市街プロジェクトの推進	
<b>進捗</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天神ビッグバンと対をなすプロジェクトとして、中世最大の貿易港であった博多部において、価値ある資源をストーリーとまちなみでつなぎ、「博多旧市街」エリアとして、市民や観光客が認知し楽しんでもらえる環境を整え、魅力を高める「博多旧市街プロジェクト」を始動した。</li> <li>・博多旧市街プロジェクトにパッケージ化する施策として、博多部エリアでの民間主導によるインバウンド向けの新たな体験型商品の造成、観光案内板等の改修に取り組んだ。               <ul style="list-style-type: none"> <li>* 分かりやすいまち歩きモデルコースの設定 H29n：2 コース</li> <li>* 旧市街統一デザインによる観光案内板等の改修 H29n：29 基</li> <li>* 外国人来館者数（「博多町家」ふるさと館，はかた伝統工芸館，福岡アジア美術館） H28n：26,736人 → H29n：30,323人</li> <li>* 「博多町家」ふるさと館及びはかた伝統工芸館の来館者数 H28n：244,447人 → H29n：228,101人</li> </ul> </li> </ul>
<b>課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天神ビッグバン，ウォーターフロントネクスト，歴史が息づく博多部の対比を考えながら街づくりを推進してきた一方で，博多部の本物の資源や魅力が十分に認知されていない状況である。</li> <li>・自分たちが住んでいる地域に興味を持ち，誇りに思う気持ちを育てながら，「博多部」にある本物の魅力を磨き，市民や観光客にしっかりと伝えることが必要。</li> </ul>
<b>今後</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博多旧市街プロジェクトにソフト・ハードの関連施策をパッケージ化することで，「天神ビッグバン」と対をなすプロジェクトとして地域や民間事業者との連携等により，福岡市の発展につなげていく。</li> <li>【ストーリーづくり】               <ul style="list-style-type: none"> <li>・博多部のストーリー性のある情報発信やロゴを活用した博多旧市街のPR，エリア全体の観光振興に取り組む。</li> <li>・博多部の歴史，伝統，文化も活かした冷泉小学校跡地の活用の検討を行う。</li> </ul> </li> <li>【まちなみづくり】               <ul style="list-style-type: none"> <li>・旧市街の主な通りを歴史・文化に配慮した趣のある道路に補装する。</li> <li>・博多旧市街へ誘う承天寺通りにおけるまちなみルールづくりを推進する。</li> <li>・博多部の回遊拠点の一つとなる，出来町公園観光拠点施設を整備する。</li> </ul> </li> </ul>

**鴻臚館・福岡城への集客向上に向けた取組み**

進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鴻臚館・福岡城エリアにおける取組みとして、イベント誘致（ミニオンズラン、福岡城チームラボ城跡の光の祭り）による集客力向上に努めた。</li> <li>・セントラルパーク構想に基づく基本計画の策定において、鴻臚館・福岡城を活用したソフト施策（乗馬体験の実証、写真スポットの磨き上げ、ユニークベニューとしての活用）について検討を進めた。</li> <li>・H26nに策定した「国史跡福岡城跡整備基本計画」に基づき、福岡城南丸多聞櫓（平櫓部分）の保存修理工事、石垣総合調査及び南丸発掘調査を実施した。</li> <li>・鴻臚館跡発掘30周年を記念した歴史講座や古代染色などの体験講座を実施した。</li> <li>・鴻臚館跡整備基本計画の検討を行った。             <ul style="list-style-type: none"> <li>* 福岡城むかし探訪館来館者数 H28n：30,913人 → H29n：30,557人</li> <li>* 三の丸スクエア来館者数 H28n：58,819人 → H29n：81,554人</li> <li>* 鴻臚館展示館来館者数 H28n：25,917人 → H29n：25,655人</li> <li>* 外国人来館者数（福岡城むかし探訪館、三の丸スクエア、鴻臚館） H28n：31,141人 → H29n：45,520人</li> </ul> </li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・史跡の周知を進めるとともに、史跡を活用した体験プログラムの開発など、市民や観光客が文化財を身近に感じるよう活用を図り、福岡の豊かで魅力ある観光資源の掘り起こしや磨き上げに取り組むことが必要。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鴻臚館・福岡城エリアにおいて、民間事業者による乗馬体験の本格実施、着物着付体験及び写真スポットでの撮影による集客拡大を図る。</li> <li>・鴻臚館・福岡城エリアのさらなるにぎわいの創出や魅力向上に繋がる、イベントの誘致、史跡を楽しめるメニューづくり、MICE参加者向けユニークベニューの活用、周辺施設等との連携に取り組む。</li> <li>・H30nは、福岡城の石垣修理設計、祈念櫓の調査及び潮見櫓の復元設計を実施するとともに「福岡城整備基金」のPRを図り、市民と一体となった整備を推進する。</li> <li>・「鴻臚館跡整備基本計画」を早期に策定する。</li> <li>・セントラルパーク基本計画と連携しながら、整備・活用を実施する。</li> </ul>

**観光視点での元寇防塁の魅力向上**

進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今津地区元寇防塁ガイドリーフレット作成や福岡マラソンに合わせたのぼりの設置などにより、元寇防塁のPRを実施。</li> <li>・今津地区元寇防塁見学のための駐車場の確保および元寇防塁駐車場利用促進のための案内板、誘導板設置。             <ul style="list-style-type: none"> <li>* 元寇防塁駐車場利用促進のための案内板・誘導板設置数 H29n：8基</li> </ul> </li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や関係者と連携し、元寇防塁の魅力を活かした活用手法を検討する必要がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元寇防塁に対する認知度を高めるためのPRや、歴史・文化資源、自然・景観などと組み合わせた回遊促進に向けて検討を進め、エリア全体の魅力向上を行い、観光客の誘致につなげる。</li> </ul>

**サイクルツーリズム振興による志賀島周辺の集客促進**

<p><b>進捗</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サイクリストが安全に走行するために、砂が堆積しやすい「道切部」清掃や注意喚起板の設置を行った。 *H28n : 9 基 → H29n : 18 基</li> <li>・マスコミ7社, 韓国新聞社2社を招聘し, レンタサイクルや座禅, 写経体験と食事などを組み合わせたモニターツアーを実施。</li> <li>・地域事業者等と連携し, 市営渡船志賀島航路の乗船券を購入した外国人旅行者等を対象に, 島内の協力店舗で利用できる割引クーポンを配付。</li> <li>・店舗メニューの多言語表記, 外国人歓迎のぼりを設置し, 外国人観光客に対する受入環境を整備。</li> <li>・市観光情報サイト「よかなび」において, 外国人旅行者向け観光商品のPRを実施。 * 志賀島周辺エリア内でのレンタサイクル利用者数 H28n : 2, 106 人 → H29n : 4, 304 人</li> </ul>
<p><b>課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き, サイクリストの安全確保に努めるとともに, 観光消費の拡大や, より一層のPRを図る必要がある。</li> </ul>
<p><b>今後</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サイクリストの安全確保に取り組む。</li> <li>・地域事業者等と連携し, 国内外からの観光客に向けたPRや, 店舗等での多言語対応推進など受入環境の整備を進める。</li> </ul>

**文化財の観光資源としての活用促進**

<p><b>進捗</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吉武高木遺跡については, 早期整備を終えた「やよいの風公園」をH29.4に開園し, オープニング式典や「コスモスまつり」をはじめとするイベントの開催によって, 活用促進に取り組んだ。また, 最寄の地下鉄駅舎内での広告掲出やSNSを利用した積極的な情報発信により, 周知活動を展開した。 * 吉武高木遺跡「やよいの風公園」での開催イベント数 H28n : 1 → H29n : 5</li> <li>・庚寅銘大刀については, 復元品の展示や貸出しを行うとともに複製品を製作した。</li> </ul>
<p><b>課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吉武高木遺跡や庚寅銘大刀については, 観光資源としての活用促進のため, さらなる広報や周知により, 認知度を高めることが課題である。</li> </ul>
<p><b>今後</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吉武高木遺跡については, 観光資源としての活用を促進するため, 地域や交通機関などとも連携を図りながら, 魅力あるイベントの開催や情報発信に努める。</li> <li>・庚寅銘大刀については, H30nに国の重要文化財指定となるよう, 資料の整理や文化庁との協議を進め, 重要文化財指定後, 実物を福岡市博物館で展示するとともに製作した復元品や複製品を積極的に活用する。</li> </ul>

●魅力の磨き上げ

アジアと創る新たな魅力づくり（アジアンパーティ） <再掲 7-3>	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「アジアと創る」をコンセプトに、アジアフォーカス・福岡国際映画祭、福岡アジア文化賞、クリエイティブフェスタの主要事業に加え、アジア、クリエイティブをテーマとした民間企業・団体などの各種事業と連携を図り、「アジアンパーティ」として、9月～10月に集中開催（23事業、約57万人が参加）。</li> <li>・アジアフォーカス・福岡国際映画祭では、222本（映像作品、関連企画含む）の優れたアジア映画を上映したほか、監督や出演者を招いたイベントを実施。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>*アジアフォーカス・福岡国際映画祭来場者数 H28n：40,286人 → H29n：35,553人（関連企画含む）</li> </ul> </li> <li>・クリエイティブフェスタでは、「クリエイティブ・エンターテインメント都市・ふくおか」を国内外に広くPRするため、福岡市役所西側ふれあい広場にてイベントを実施。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>*クリエイティブフェスタの来場者数 H28n：約64,000人 → H29n：約85,000人</li> </ul> </li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アジアンパーティは、H29nに5年目を迎え、参加人数・認知度について一定の成果が得られているが、今後も引き続き事業の背景・趣旨や目的の周知に努める必要がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さらなる認知度向上、効果的な事業展開にむけて、民間企業・団体との連携強化を図る。</li> <li>・アジアフォーカス・福岡国際映画祭については、アジアンパーティの主要事業の1つとして、映画だけでなく、映像分野を一体的に振興し、効果的な広報に努めることで、「クリエイティブ・エンターテインメント都市・ふくおか」のブランディングを推進する。</li> <li>・クリエイティブフェスタについては、アジアンパーティの中核イベントとして開催し、さらなる集客とブランディングを図る。</li> </ul>

祭りの魅力発信	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユネスコ登録された5都市の祭り行事と行政機関が連携し、九州ユネスコ無形文化遺産登録記念「祭 WITH THE KYUSHU」と称し、祭りが持つ活力で九州を盛り上げるためのイベントを開催した。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>*ユネスコ登録記念イベント「祭 WITH THE KYUSHU」来場者数 H29n：約18万人</li> </ul> </li> <li>・九州の五つの祭りを初めて福岡に集結させ、市役所周辺道路を周回する特別巡行を実施。沿道には国内外から多数の見物客が訪れた。</li> <li>・また、市役所西側ふれあい広場では、九州・沖縄全県から23の観光・物産・飲食ブースが出店され、九州各地の魅力と観光資源の情報発信を行った。</li> <li>・2日間のイベント期間中、約18万人の来場者があり、活気と賑わいに溢れる大盛況の催しとなり、特に5つの祭りの特別巡行は大変好評であった。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「国指定重要無形民俗文化財」の博多祇園山笠行事ほか、「県指定無形民俗文化財」に指定されている博多松囃子も含め、魅力発信の機会を生かした、効果的な取組みが必要である。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博多祇園山笠、博多松囃子をはじめとした、祭りの魅力を国内外の観光客がさらに楽しめるよう、山笠VRの活用や祭り行事の披露など広報事業の計画的な展開を検討する。</li> </ul>

集客交流拠点としての美術館の魅力向上 <再掲 1-4>	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設改修工事の実施（H29.6着工）。</li> <li>・工事中の仮囲いに壁画を掲出する市民参加型イベントの実施。</li> <li>・ホームページやSNSを通じた情報発信、収蔵品情報システムの開発などのリニューアルに向けた開館準備業務の実施。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニバーサルデザインへ対応するとともに、時代や市民のニーズに応える集客交流拠点として魅力向上を図ることが必要。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H30.9まで施設改修を実施、H31.3にリニューアルオープン予定。</li> </ul>

**集客交流拠点としての福岡アジア美術館の魅力向上 <再掲1-4>**

進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>来館者の憩いや読書の場としての機能を強化するとともに、博多旧市街における文化の回遊・観光拠点として、リニューアルを行った。 *外国人来館者数（福岡アジア美術館）H28n：4,892人 → H29n：7,076人</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>集客交流拠点として、「アートカフェ」を中心に、市民や観光客の認知度を高めることが課題である。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>「アートカフェ」を、コンサートやトークイベントなどを開催する新たな場としてアピールし活用を図る。また、当館のイベントでも積極的に利用する。</li> </ul>

**博物館機能の歴史文化資源としての価値向上**

進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>鴻臚館跡発掘30周年にあわせ、自主企画展「発見100年記念特別展 よみがえれ！鴻臚館一行き交う人々と唐物一」を開催。雅楽コンサートなどのイベント実施等、鴻臚館の周知を図った。</li> <li>博物館の企画展示国宝名物「圧切長谷部」の展示にあわせて、H28nに引き続き、人気オンラインゲームとのコラボ企画を実施。さらに、自主企画展「新春特別企画 黒田家の刀剣と甲冑展」を同時期に開催し、国内外から多くの観覧者を動員した。 「新春特別企画 黒田家の刀剣と甲冑展」（H30.1.7～H30.2.12）観覧者数：14,693人</li> <li>市内小学校の休暇期間を活用し、金印の使い方（封泥）を知るワークショップ「こども博物館」を計4回実施し、410人が体験した。 *外国人来館者数（博物館） H28n：5,198人 → H29n：7,938人</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史・文化や集客交流拠点としての認知度をさらに高めることが課題。</li> <li>地域住民、観光客など多様なニーズに合わせた事業展開。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>SNSなどさまざまなメディアを活用し積極的な広報を行うとともに、ホームページ等の多言語での情報提供を充実させる。</li> <li>2019年ラグビーワールドカップ、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、アンケート等により来館者のニーズを把握し、博物館の収蔵品や福岡の歴史・文化資源、地域と連動を図りながら、外国人観光客も楽しめるような魅力的な事業を実施する。</li> <li>福岡の歴史・文化に関する事業の充実など、観覧だけではなく体験する機会の提供を推進する。</li> </ul>

**ふくおかの“食”の磨き上げ <再掲6-4>**

進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内産農水産物の国内外へのPRや販路拡大のため、福岡市ブランド水産物である「唐泊恵比須かき」を軸にした海外プロモーション活動や、マーケティング拠点施設（博多家（ハカタハウス））を活用した海外一流シェフやバイヤーの招聘活動を実施。</li> <li>国内外の食のイベントでのPR活動として、H29.11月に東京で開催された「東京ハーヴェスト」、H30.3月に香港ミラホテルで開催された「福岡産食のイベント」に参加した。 *海外のシェフ等との商談回数 H28n：4回 → H29n：5回</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在、香港の複数の高級レストランへの「唐泊恵比須かき」や弘のサザエ、アサリ等市内水産物の出荷が進みつつあるが、国内市場においては、市内水産物の知名度は必ずしも高いとは言えないため、海外PRを継続しながら、国内向けブランド強化・販路拡大の取組強化が必要。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内産農水産物の海外PR活動及び海外一流シェフやバイヤーの招聘活動を継続しながら、国内向けブランド強化・販路拡大の取組として、引き続き関東圏で開催される食のイベント等に参加しPR活動を実施する。</li> </ul>

**動植物園再生事業 <再掲 4 - 4 >**

<b>進捗</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ H28n から開始したエントランス複合施設の建設工事を継続。</li> </ul>
<b>課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 動物の個別的特徴や管理安全面に配慮しつつ、来園者の視点に立った魅力づくりや「また来たい」と思わせる特別な仕掛けづくりが必要。</li> </ul>
<b>今後</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人と地球にやさしい飼育及び植生環境と来園者の更なる利便性の改善を行うとともに、まちと自然が調和した快適な都市型動植物園へとリニューアルを推進。</li> <li>・ 建設中のエントランス複合施設については、H30.10 にオープン予定。</li> <li>・ H30n よりペンギン展示施設の整備に着手し、その後「こども園」、「アフリカの草原エリア」、「日本の自然エリア」をはじめとする区域を整備。</li> </ul>

**特色ある公園づくり事業（高宮南緑地） <再掲 4 - 4 >**

<b>進捗</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大正・昭和期の貴重な歴史的建築物である旧高宮貝島家住宅を、H29.6 に福岡市登録文化財に登録。</li> <li>・ 旧高宮貝島家住宅を含む高宮南緑地の整備・管理運営を行う事業者公募を開始。</li> </ul>
<b>課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本事業は民間活力の導入による魅力的な整備・管理運営を求めるものであるが、本事業地が市民に開かれた公園であり続けるよう、事業者と慎重な協議が必要。</li> </ul>
<b>今後</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ H30n は、優先交渉権者の決定及び事業協定の締結後、実施設計や諸手続きを経て、「債務負担行為」及び「指定管理者指定」の議案を上程し、事業実施協定を締結予定。</li> <li>・ 2019 年度より工事に着手し、2021 年度の開園を目指す。</li> </ul>

## 施策5-2 緑と歴史・文化のにぎわい拠点づくり

### 1 施策推進に向けた平成29年度の取組み（主な進捗状況） ★は政策推進プランに掲げる目標値等

#### ●市民の憩いと集客の拠点づくり（大濠公園・舞鶴公園の一体的な活用等）

##### セントラルパーク構想の推進に向けた計画づくり

- ・セントラルパーク基本計画の策定に向けた検討
- ・「鴻臚館跡整備基本計画」の策定に向けた検討

##### ポテンシャルを最大限に活かす利活用の推進①（賑わいづくり）

★イベントの年間開催日数 H28n : 77日 → H29n : 154日

- ・鴻臚館展示館来館者数 H28n : 25,917人 → H29n : 25,655人

##### ポテンシャルを最大限に活かす利活用の推進②（市民・企業等との共働）

- ・福岡城整備基金寄付 H28n : 13,925,957円 → H29n : 10,518,145円

##### 利活用を支える体制づくり

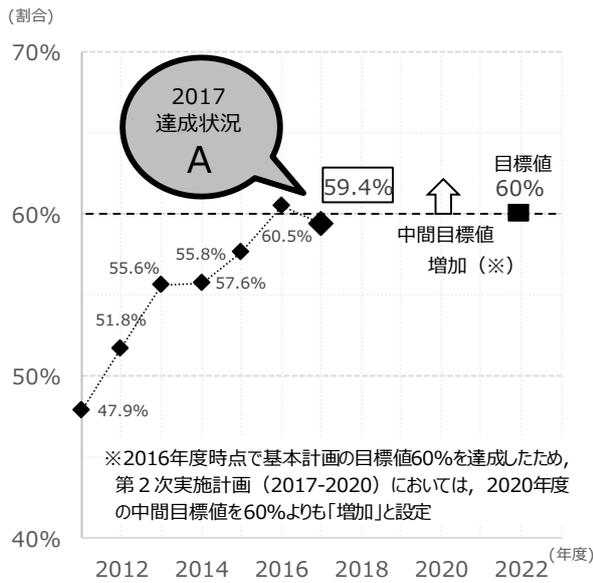
- ・大濠・舞鶴公園連絡会議の開催回数 H28n : 2回 → H29n : 2回

##### 利活用を支える機能の充実

- ・サクラやアジサイ等，史跡や公園における見所づくり，野鳥の観察スポット創出
- ・花の見頃に応じた移動式ベンチの設置，既存トイレの一部洋式化
- ・城内住宅の移転率 H28n : 71.4% → H29n : 72.4%

## 2 成果指標等の動向

### ①過去3年間に福岡城跡（舞鶴公園）に行ったことがある市民の割合



出典：福岡市総務企画局「基本計画の成果指標に関する意識調査」

#### <指標の分析>

指標①については、緑と歴史・文化に関するイベントや、指定管理者の自主事業の充実、多様な民間イベント等の受け入れなどによる取組みを推進したことが、指標の順調な推移に現れていると考えられる。

## 3 施策の評価



◎：順調	[参考]前年度 ◎：順調
------	-----------------

#### 4 取組の進捗状況・課題と今後の方向性

##### ●市民の憩いと集客の拠点づくり（大濠公園・舞鶴公園の一体的な活用等）

セントラルパーク構想の推進に向けた計画づくり	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セントラルパーク基本計画の策定に向けた検討を行った。</li> <li>・「鴻臚館跡整備基本計画」の策定に向けた検討を行った。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国が新たに示した文化財や公園の利活用を重視する方針を踏まえて、基本計画の内容を検討する必要がある。</li> <li>・鴻臚館の特性を活かした現代的な活用や必要な整備内容の検討が必要。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セントラルパーク基本計画について、H30n 策定を目指す。</li> <li>・「鴻臚館跡整備基本計画」を策定する。</li> </ul>

ポテンシャルを最大限に活かす利活用の推進①（賑わいづくり）	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福岡城さくらまつりの内容を充実させた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>* 翻訳デバイスの導入、歴史的建造物でのアート作品展示、野外ライブなどを実施</li> </ul> </li> <li>・指定管理者の自主事業の充実により、利活用を推進した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>* 福岡城梅まつりの内容充実（コンテンツの充実、イベント名称の変更等）</li> <li>* 福岡城秋の公園で遊ぼうの内容充実（自治会との連携、マルシェ試行等）</li> <li>* ラジオ体操の実施（19日間、延247名参加）</li> <li>* キッチンカー事業の実施（公募にて事業者を選定、福岡城梅まつりで事業開始）</li> <li>* マルシェ事業の実施（福岡城秋の公園で遊ぼうにて試行）</li> <li>* 西広場バーベキュー事業の協働事業者を公募</li> </ul> </li> <li>・多様な民間イベントを受入れ、季節毎の賑わいを創出した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>* イベントの年間開催日数 H28n：77日 → H29n：154日</li> <li>* 福岡城夏祭り（天守閣をパネルで再現、盆踊り等）</li> <li>* 福岡城チームラボ城跡の光の祭（福岡城の石垣をデジタルアートで演出）</li> <li>* ミニオンズラン at 福岡城（歴史資源を活用したスタンプラリー）</li> <li>* エコ&amp;ビューティ（大濠公園と舞鶴公園を一体的に活用した催し）など</li> </ul> </li> <li>・秋と春のイベントをパッケージ化した「イベントガイド」を作成し、各所で配付した。</li> <li>・指定管理者により、公園の情報発信を強化した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>* 舞鶴公園ホームページを分かりやすくリニューアル</li> <li>* 舞鶴公園四季のカレンダーを新たに作成</li> </ul> </li> <li>・利活用促進に向け福岡市公園条例を改正し、分かりやすい公園使用料への見直しを行った。</li> <li>・暫定版の運用実態や公園条例の改正を踏まえ、イベント利用の手引きの見直しを行った。</li> <li>・セントラルパーク構想に基づく基本計画の策定において、鴻臚館・福岡城を活用したソフト施策（乗馬体験の実証、写真スポットの磨き上げ、ユニークメニューとしての活用）について検討を進めた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>* 鴻臚館展示館来館者数 H28n：25,917人 → H29n：25,655人</li> </ul> </li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民や観光客が四季を通じて楽しめる状況にはなっていない。</li> <li>・現地に電気・給排水設備が無いことがイベント主催者の負担になっている。</li> <li>・鴻臚館・福岡城エリアのさらなる魅力や認知度の向上が必要。</li> <li>・史跡を活用した体験プログラムの開発など、市民や観光客が福岡の歴史・文化を巡る環境整備や集客促進が課題。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都心部最大級の広場空間（舞鶴公園西広場・鴻臚館広場）を活用しつつ、国史跡鴻臚館跡や福岡城跡、四季折々の花々を観光資源として活かしていくため、福岡城さくらまつりを核とした多様なイベントの充実により、季節を通じた賑わい創出に取り組む。</li> <li>・西広場バーベキューの早期事業開始や、キッチンカー及びマルシェの定期的な実施に向けた取組みを進める。</li> <li>・イベントしやすい環境を整えるため、園内の電気・給排水設備の調査・設計を行う。</li> <li>・鴻臚館・福岡城ならではの歴史を感じられる魅力ある空間を活かしたMICEレセプションや体験型イベントを誘致する。</li> <li>・石垣等の撮影スポットの魅力向上など観光客が史跡を楽しめるメニューの提供に取り組む。</li> </ul>

**ポテンシャルを最大限に活かす利活用の推進②（市民・企業等との共働）**

<p><b>進捗</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民と一体となって福岡城整備を推進する「福岡城整備基金」について、舞鶴公園をはじめとした市内各種イベントにおけるブース出展などのPR活動や、ふるさと納税制度を活用した福岡市ホームページによる周知、市内文化関連施設等へのリーフレット及び募金箱の設置などを行うとともに、関係自治体が一堂に会する「ふるさと納税フェスタ」への参加や、各地の福岡県人会などと連携し、総会でのブース出展や、会員へのリーフレット配布を行うなど、市外のPRにも積極的に取り組むことで、基金の収益及び認知度の向上を図った。</li> <li>*年度毎寄付実績（カッコ内は目標額） <ul style="list-style-type: none"> <li>H26n：289件， 8,225,019円（10,000,000円）</li> <li>H27n：248件， 8,955,834円（25,000,000円）</li> <li>H28n：224件， 13,925,957円（25,000,000円）</li> <li>H29n：165件， 10,518,145円（25,000,000円）</li> <li>累計：926件， 41,624,955円</li> </ul> </li> </ul>
<p><b>課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>福岡城整備基金の寄付額は年々増加しているものの、年度毎の目標額に到達していない。</li> </ul>
<p><b>今後</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>福岡城整備基金について、幅広い市民の参加意識醸成を図るとともに、ターゲットを絞った寄付者の開拓及びリピーターの確保に努める。 <ul style="list-style-type: none"> <li>城内イベントと連携した寄付等の拡充</li> <li>福岡城独自の返礼品を付加することによる他基金との差別化</li> <li>リピーター確保に向けた寄付者への情報発信の強化や、歴史系雑誌等への広告掲載</li> <li>各種媒体を活用した広報の強化や、地域等と共働した事業の実施</li> </ul> </li> </ul>

**利活用を支える体制づくり**

<p><b>進捗</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大濠公園と舞鶴公園の一体的な運用等に関する情報共有や協議検討を行うことを目的とした大濠・舞鶴公園連絡会議について、文化財や観光部局等もメンバーに加えて開催。</li> <li>指定管理者の自主事業の充実により、市民との共働を促進した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*小学校との連携強化を図るため、出前講座メニューを作成し、近隣小学校に配布。</li> <li>*市民ボランティアと共働で、花壇植付け等を実施。</li> </ul> </li> <li>福岡市造園建設業協会・福岡市緑化協会のボランティアによる石垣除草を実施。</li> <li>NPO福岡城市民の会との共働事業を実施。</li> </ul>
<p><b>課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>両公園内の複数の施設管理者や関係部局が連携した一体的な管理運営の実現に向け、大濠・舞鶴公園連絡会議の充実が必要。</li> <li>さらなる市民・企業等との共働の取組みが必要。</li> </ul>
<p><b>今後</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大濠・舞鶴公園連絡会議の開催頻度を増やす。</li> <li>日常的に県民・市民、NPO、企業の知恵・労力・資金などを広く受入れ、効果的に活用していく仕組みづくりの検討を進める。</li> </ul>

<b>利活用を支える機能の充実</b>	
<b>進捗</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 史跡や公園としての魅力向上のための見所づくりを実施。               <ul style="list-style-type: none"> <li>* サクラの名所づくりに向け、剪定・土壌改良等を実施（南丸、枝垂れ桜並木）</li> <li>* アジサイの見所づくりに向け、市民と共働でアジサイを植樹（下之橋、御高屋敷）</li> <li>* ツツジ園の見所づくり（ゲンカイツツジの寄付受入れ）</li> <li>* 樹木整理を実施（(伝)潮見櫓周辺）</li> <li>* ハスを刈り残すことで、冬場の野鳥の観察スポットを創出（3号濠）</li> </ul> </li> <li>・ 舞鶴中学校跡地活用施設のさらなる機能充実。               <ul style="list-style-type: none"> <li>* タイムズ福岡城三の丸駐車場において、観光バス駐車場を4台増設</li> <li>* 如水庵において、観光バス駐車場に直結した出入口を新設</li> </ul> </li> <li>・ 舞鶴公園における回遊性・快適性の向上。               <ul style="list-style-type: none"> <li>* 大濠公園と舞鶴公園共通のサインマニュアルの素案を作成。</li> <li>* 福岡市美術館東口バス停において、ベンチを新設</li> <li>* 花の見頃に応じた移動式ベンチの設置（指定管理者）</li> <li>* 既存トイレの一部を洋式化（1ヶ所）。</li> </ul> </li> <li>・ 福岡高等裁判所跡地について、H30nからの防災公園街区整備事業の事業着手に向け、UR都市機構と協議を行い準備を進めた。               <ul style="list-style-type: none"> <li>* 事業期間：H30n～H35n、債務負担行為議決済</li> </ul> </li> <li>・ 城内住宅の移転を実施。               <ul style="list-style-type: none"> <li>* 移転率 H28n：71.4%（140/196区画）→ H29n：72.4%（142/196区画）</li> </ul> </li> </ul>
<b>課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ サインやベンチなど、老朽化した既存施設への対応が必要。</li> <li>・ 利活用を支える機能の充実については、将来の多様なニーズにも対応できる計画とするとともに、計画的な財源確保が必要である。</li> <li>・ 鴻臚館・福岡城の遺構の全容解明が必要。</li> <li>・ 樹木の整理や修景・再整備に関する市民の理解（緑への愛着、生物多様性等）が必要。</li> </ul>
<b>今後</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ サインマニュアルに基づき、順次、既存サインの更新を進める。なお、大濠公園含めた地図表示や多言語に対応したものへと更新する。</li> <li>・ 本丸や広場など来園者が多い場所を中心に、順次、既存のベンチを更新する。</li> <li>・ 基本計画に基づき、計画的に公園整備や史跡の発掘調査・復元整備を推進する。</li> <li>・ 樹木整理等について、丁寧に周知等を行いながら進める。</li> <li>・ 福岡高等裁判所の跡地整備について、関係機関と連携しながら着実に進めていく。</li> <li>・ 城内住宅について、計画的に移転事業を進める。</li> </ul>



**施策 5 - 3 情報アクセスや回遊性など、来街者にやさしいおもてなし環境づくり**

**1 施策推進に向けた平成 29 年度の実績（主な進捗状況）** ★は政策推進プランに掲げる目標値等

●おもてなしの向上

**まち歩きガイド内容の拡充**

- ・まち歩きコース数 H28n : 46 コース → H29n : 49 コース
- ・歴史なびコース数 H28n : 10 コース → H29n : 11 コース

**官民共働による外国人の受入環境整備**

- ・外国人受入実証対応店舗 H28n : 11 ケ所 → H29n : 80 ケ所
- ・公衆無線 LAN サービス提供拠点数 H28n : 102 ケ所 → H29n : 104 ケ所

**観光情報サイト「よかなび」による質の高い観光情報の提供**

- ・本日開催イベント及びツアー情報の発信を開始
- ・「よかなび」でのイベント及びツアー情報発信件数 H28n : 442 件 → H29n : 554 件

●交通利便性や都心回遊性の向上

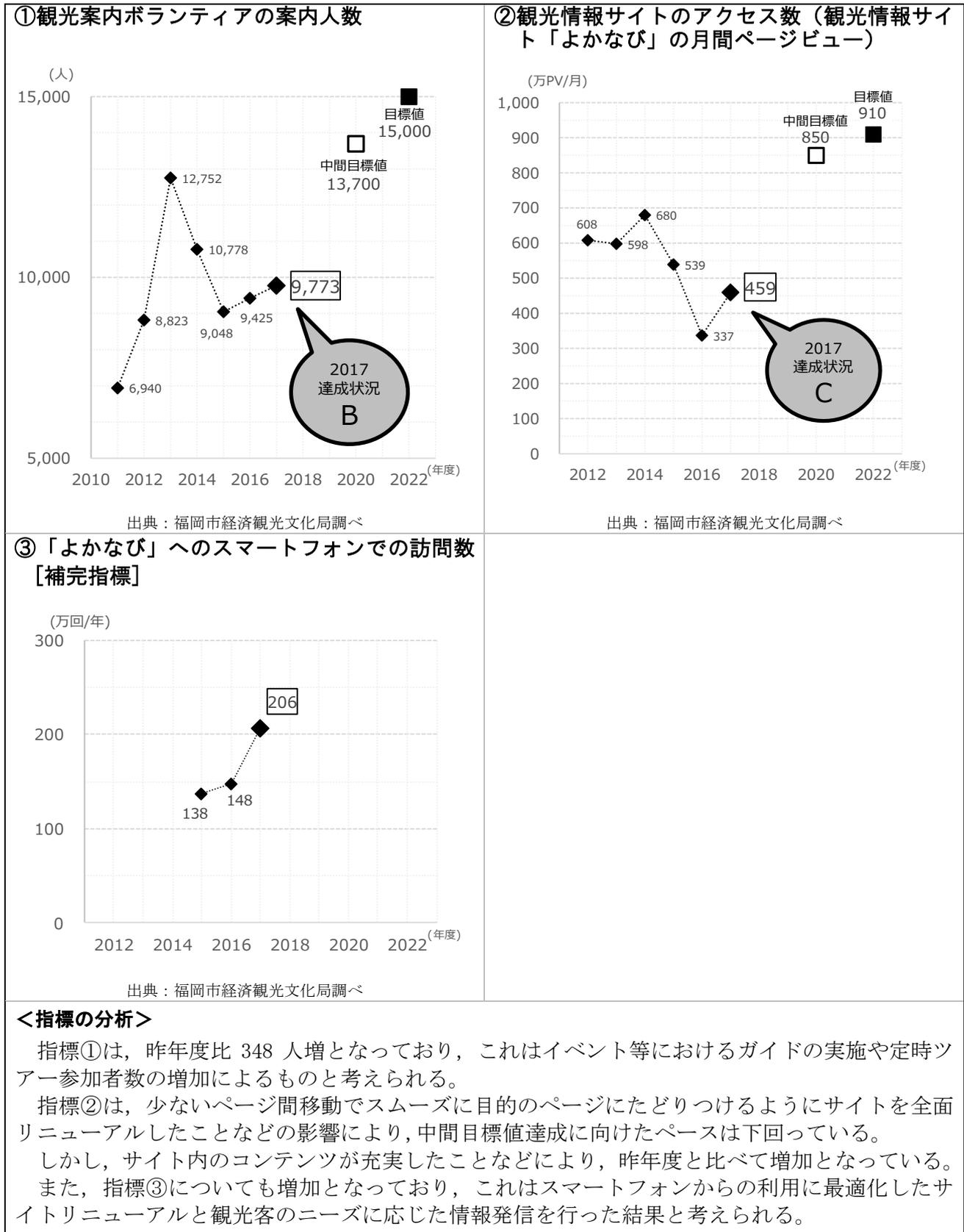
**快適で高質な都心回遊空間の創出**

- ★はかた駅前通りの魅力づくりや回遊性向上に向けた道路整備を実施
- ★民間事業者が整備するバスターミナルと博多駅とを結ぶ歩行者デッキの整備（H29n 基本設計）
- ★西中洲の魅力づくりに向けた石畳整備と景観誘導（H29.7 一部区間にて工事着手）
- ★国が整備する国道 202 号春吉橋架替の迂回路橋を活用した賑わい空間の創出（迂回路橋整備中）

**観光バス受入環境の改善 <再掲 5 - 6 >**

- ・樋井川河畔緑道観光バス駐車場の利用台数 H29n : 5,777 台（H29.6.1 供用開始）

## 2 成果指標等の動向



## 3 施策の評価

○：概ね順調	[参考]前年度 ○：概ね順調
--------	-------------------

#### 4 取組の進捗状況・課題と今後の方向性

##### ●おもてなしの向上

まち歩きガイド内容の充実	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光客の依頼に応じた派遣ガイドや企画募集型まち歩きガイド，市の観光施設等での観光案内・定時ツアーを実施。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*案内件数 H28n：1,054件 → H29n：958件</li> <li>*案内人数 H28n：9,425人 → H29n：9,773人</li> </ul> </li> <li>福岡市内の様々な地域の魅力を再発見してもらうため，新コースを開発し，まち歩きの内容充実を図った。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*まち歩きコース数：H28n：46コース → H29n：49コース</li> </ul> </li> <li>増加する外国人観光客に福岡の魅力を発信し，回遊性を促進するため，大学や通訳ボランティアガイド（ウェルカムサポーター）等と連携して，外国人観光客への観光案内を実施した。</li> <li>歴史ナビアプリに，H29nは，「記紀と対外交流-香椎」ルートを3月に追加し，計11ルートを活用した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*歴史ナビコース数 H28n：10コース → H29n：11コース</li> </ul> </li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>「まち歩き」ガイドについて，案内人数増加に向けて，観光客の様々なニーズに応じた観光案内を行う必要がある。</li> <li>福岡市への外国人観光客は大きく増加しているが，外国語対応可能な人材が不足している。</li> <li>歴史ナビアプリダウンロード数が減少傾向にあるため，さらなる周知や広報の充実が必要である。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>都心部以外の地域についても，新たな地域の魅力を発掘し，新コースを開発することにより，ガイド内容の拡充及び市内の回遊促進を図る。</li> <li>外国語対応可能な人材の育成及び確保を行うとともに，他団体との連携やI o Tの活用など，インバウンド向け観光案内の仕組み作りを行う。</li> <li>観光ボランティアなどと連携し，福岡の歴史と文化財を他の観光資源と結びつけながら，より幅の広いまち歩きをしてもらう。あわせて，広くアプリを知ってもらい活用してもらえるよう，情報発信に努める。</li> </ul>

官民共働による外国人の受入環境整備	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>ぐるなびとの包括連携協定による，インバウンド対策セミナー（50名参加）を実施。</li> <li>大名地区等において，外国人旅行者の利便性・回遊性向上に向けた店舗での実証を実施。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*外国人受入実証対応店舗 H28n：11ヶ所 → H29n：80ヶ所</li> </ul> </li> <li>無料公衆無線LANサービス「Fukuoka City Wi-Fi」の拠点拡大を官民共働により推進。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*公衆無線LANサービス提供拠点数 H28n：102ヶ所 → H29n：104ヶ所</li> </ul> </li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>受入体制の強化については，観光施設や宿泊施設，交通機関，飲食店等と連携して取り組む必要がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>商店街・地域事業者が実施するおもてなしへの支援や，国や民間企業と連携し，I o T等を活用した観光サービスの生産性向上などに取り組むことで，観光産業の振興を図るとともに，インバウンド対応や宿泊施設等の供給力強化など受入環境の充実を図る。</li> </ul>

**観光情報サイト「よかなび」による質の高い観光情報の提供**

進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内外への情報発信として、5言語（日本語、英語、韓国語、中文簡体、中文繁体）で展開するとともに、主要な情報については、フランス語、ドイツ語、スペイン語、ポルトガル語、タイ語の5言語、計10言語で発信。</li> <li>・H29.10にトップページのリニューアルを行い、外国人旅行者を含む来福者の回遊性の向上や地域における消費拡大に繋げていく観点から、今日福岡に来た人が、今福岡で行われているイベント等がひと目で分かるように「本日開催のイベント及びツアー情報」の発信を開始。 *「よかなび」でのイベント及びツアー情報発信件数 H28n:442件→H29n:554件</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光による経済効果が様々なエリアに行き渡るよう、情報発信に取り組んでいくことが必要。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々なエリアの旬のコンテンツの発信に加え、外国人観光客のニーズを踏まえたコンテンツを作成し、多言語で発信することなどにより、サイト利用者の興味を喚起するほか、外国人観光客をはじめとする来福者に、「本日開催のイベント及びツアー情報」等をわかりやすく発信し、福岡市内における回遊性の向上や地域における消費拡大に繋げていく。</li> </ul>

**●交通利便性や都心回遊性の向上**

**快適で高質な都心回遊空間の創出**

進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・庁内横断的な検討組織を設置し、事業間の調整・情報共有などを通じて事業の優先順位の整理や関係課と連携した事業計画の立案・予算化など、事業の全体最適化を推進。 &lt;具体事業&gt; *水辺を活かした空間の魅力づくりを推進するため、水上公園を再整備 (H28.7 供用開始) *はかた駅前通りの魅力づくりや回遊性向上に向けた道路整備 (H28.7 工事着手) *新たに民間事業者が整備するバスターミナルと、博多駅とを結ぶ歩行者デッキの整備 (H29n 基本設計) *西中洲の魅力づくりに向けた石畳整備と景観誘導 (H29.7 一部区間にて工事着手) *国が整備する国道202号春吉橋架替の迂回路橋を活用した賑わい空間の創出 (迂回路橋整備中)</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都心部の回遊性向上に向けた事業の実施にあたっては、主要プロジェクトの開業・供用時期や民間ビルの開発機運などを捉えた戦略的な推進が必要。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、都心回遊に関する関係者間の事業の調整・情報共有とともに、周辺のまちづくりの動向等を踏まえ、事業の具体化に向けた検討を着実に推進する。</li> </ul>

**観光バス受入環境の改善 <再掲 5 - 6>**

進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光地周辺等における活用可能性のある公有地等の調査・検討を行い、実施。</li> <li>・今津地区元寇防塁の観光バスへも対応した駐車場の供用開始。</li> <li>・福岡タワー周辺における観光バス駐車場の供用、及びショットガン方式の運用開始。</li> <li>・樋井川河畔緑道観光バス駐車場の利用台数 H29n:5,777台 (H29.6.1 供用開始)</li> <li>・市営博多駐車場跡地における観光バスを含めたバス乗降場の確保について、施設運営事業者など関係者と運用方法等の協議・調整を行った。</li> <li>・博多区御供所地区にある出来町公園における観光バス乗降場、休養施設の設置・管理運営事業者の公募を行い、H30.2に優先交渉権者を決定した。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光地周辺等における恒久的な観光バス駐車場等の整備においては、十分な広さを有した適地の確保が困難。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光バス駐車場等の確保に向けた活用可能性のある公有地等の調査・検討を行う。</li> <li>・出来町公園の観光バス乗降場については、事業者と運用方法等の協議・調整を行い、H30nの供用開始に向けて取り組む。</li> <li>・クルーズ船観光バスによる交通混雑については、博多港クルーズ船受入関係者協議会や県警などとも連携し、対策に取り組む。</li> </ul>

## 施策5-4 交流がビジネスを生むMICE拠点の形成

### 1 施策推進に向けた平成29年度の実績（主な進捗状況） ★は政策推進プランに掲げる目標値等

#### ●MICE機能の強化

##### ウォーターフロント地区内でのコンベンション機能の強化 <一部再掲8-1>

- ★第2期展示場及び立体駐車場の先行整備について、事業者公募手続きやインフラ工事を実施
- ★新ホール等MICE施設に係る施設計画や事業手法を検討
- ★公共施設等運営権制度の活用も含めた効果的な運営手法を検討

##### 都心循環BRTの形成に向けた検討 <再掲4-5>

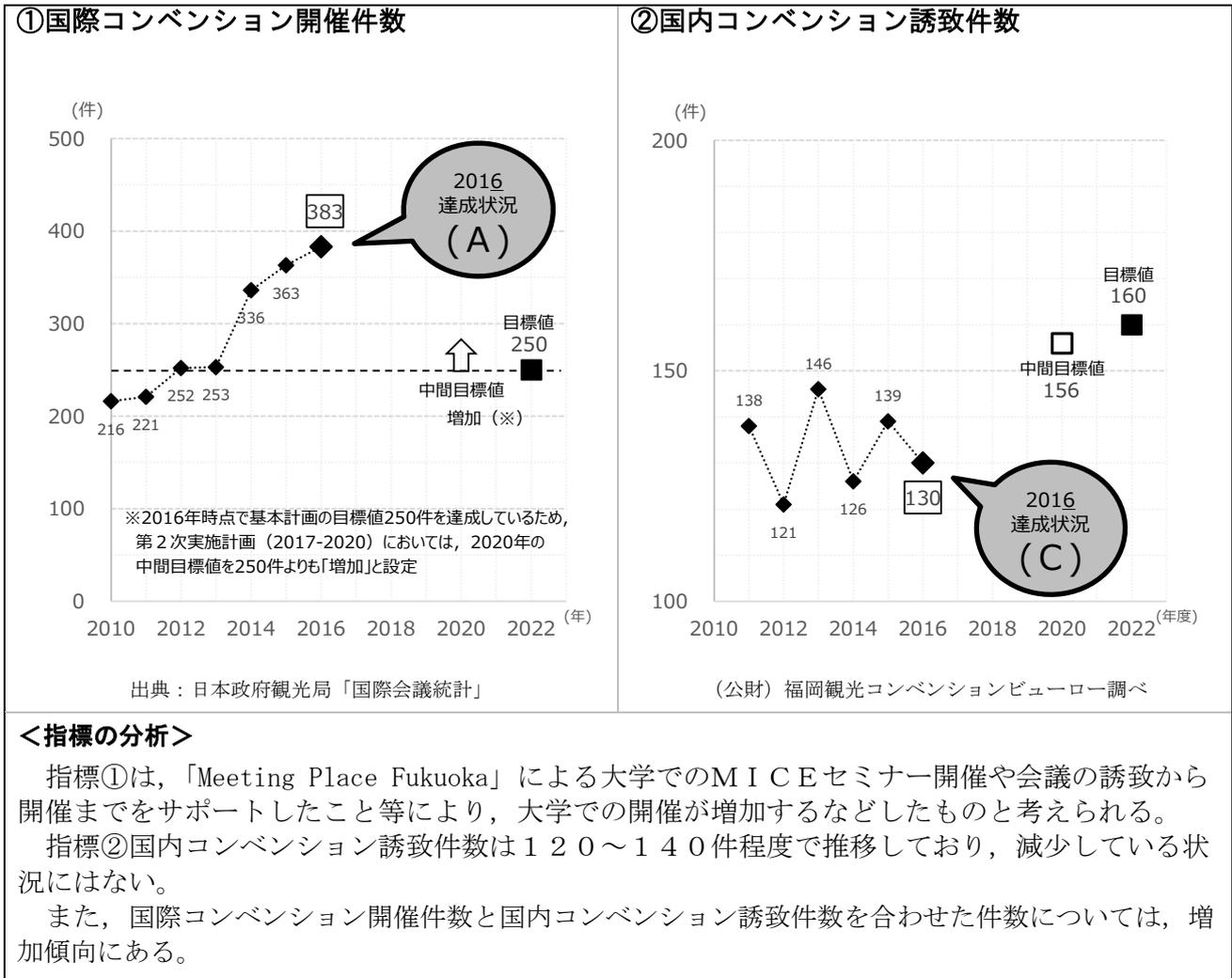
- ・連節バスによる試行運行 H28n：12便/日 → H29n：62便/日
- ・時間帯バス専用レーンの拡充・強化等の検討

#### ●MICE誘致の推進

##### 戦略的なMICEの誘致やビジネス振興

- ★海外見本市等商談件数 H28n：294件 → H29n：213件
- ・コンベンションサポート件数 H28n：75件 → H29n：97件
- ・国家戦略道路占用事業（ストリートパーティー等）実施実績 H28n：16件 → H29n：14件

## 2 成果指標等の動向



## 3 施策の評価

○：概ね順調	[参考]前年度 ○：概ね順調
--------	-------------------

#### 4 取組の進捗状況・課題と今後の方向性

##### ●MICE機能の強化

ウォーターフロント地区内でのコンベンション機能の強化 <一部再掲8-1>	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2期展示場及び立体駐車場については、事業者公募手続きを進めていたが、入札中止となったことから、再公募に向けた検討・調整を行い、H30.2に再公募に係る入札公告を行った。また、上下水道などのインフラ工事に関する設計・工事等を進めた。</li> <li>新ホール等のMICE施設について、施設計画や事業手法等の検討を行ったほか、施設の運営について、公共施設等運営権制度の活用も含め、幅広く民間ノウハウや活力を生かせる効果的な運営手法の検討を行った。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウォーターフロント地区内での「オール・イン・ワン(※)」の早期実現にあたり、ホテル・賑わい施設等の誘致のほか、交通アクセス強化等も含めた魅力的で実現性の高い計画づくりが必要。</li> <li>※展示場、会議室、宿泊、宴会場などのMICE関連施設や飲食店、休憩所等が徒歩圏内に一体的・機能的に配置されること。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2期展示場等については、事業者公募の手続きを進めるとともに、必要な造成工事やインフラ工事を行うなど、2021年開館に向けた取組みを進める。</li> <li>新ホール等のMICE施設の整備やホテル等の誘致について、事業化に向けた検討を進めるほか、既存施設と新設施設の一体的な運営の実現に向けた事業手法の具体的な検討を進める。</li> </ul>

都心循環BRTの形成に向けた検討 <再掲4-5>	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>都心循環BRTの形成に向けた連節バスによる試行運行の実施(H29.6からは約20分~30分間隔、1日62便の運行に移行) <ul style="list-style-type: none"> <li>*連節バスによる試行運行 H28n:12便/日 → H29n:62便/日</li> </ul> </li> <li>専用走行空間のあり方として、都心循環BRTを含めたバスの定時性・速達性の確保による公共交通の利便性を向上させるため、時間帯バス専用レーンの拡充・強化等の検討を実施。</li> <li>バス路線の再編・効率化として、連節バスの増便に併せたバス路線の再編を西鉄において実施。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民や来街者などを対象に実施したアンケート調査によると、「運行頻度の向上(15分に1便以上)」や「広報案内の充実」に加え、「時間通りの運行」を求める意見が多いことから、西鉄や交通管理者と連携しながら、更なる運行頻度の向上や広報案内の充実、定時性・速達性の確保による公共交通の利便性向上に資する取組みが必要。</li> <li>郊外部のサービス水準を極力低下させずに都心部の交通負荷を低減することを基本としたバス路線の再編・効率化に継続的に取り組むことが必要。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>連節バスによる試行運行については、今後も西鉄と連携しながら利用者動向等に応じた様々な検証・検討のもと、広報・案内の充実や運行頻度の向上にむけて取り組んでいく。</li> <li>定時性・速達性の確保による公共交通の利便性向上に資する取組みについては、時間帯バス専用レーンにおける走行空間の明示化や区間・時間帯の段階的な強化など、交通管理者等と協議しながら実現に向けて取り組んでいく。</li> <li>バス路線の再編・効率化については、引き続き西鉄において、乗り継ぎ施策と併せたバス路線の幹線・フィーダ化や、連節バス増便に併せた再編・効率化等に取り組む。</li> </ul>

●MICE誘致の推進

戦略的なMICEの誘致やビジネス振興	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アジア初開催となる「ICCA AMP2017(国際会議協会の研修会)」が開催。</li> <li>・2019年の「G20首脳会議」の誘致に取組み、「G20財務大臣・中央銀行総裁会議」の開催地に決定。               <ul style="list-style-type: none"> <li>*海外見本市等商談件数 H28n: 294件 → H29n: 213件 (※H29nは一部商談形式の変更あり)</li> <li>*コンベンションサポート件数 H28n: 75件 → H29n: 97件</li> <li>*国家戦略道路占用事業(ストリートパーティー等)実施実績 H28n: 16件 → H29n: 14件</li> </ul> </li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人参加者が多く、世界的に知名度の高い国際会議や地場企業等のビジネスに繋がる展示会などの開催を更に増加させることが必要。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンベンション開催件数は順調に推移しており、今後も積極的に誘致に取り組むとともに、より質の高いMICEを目指し、市内大学や福岡市MICEアンバサダーとの連携を強化し、戦略的なMICE誘致を進める。</li> <li>・国家戦略特区の道路活用などユニークベニューの活用を進め、MICE開催地としての魅力向上に努める。</li> </ul>

## 施策 5 - 5 国際スポーツ大会の誘致やプロスポーツの振興

### 1 施策推進に向けた平成 29 年度の実績（主な進捗状況） ★は政策推進プランに掲げる目標値等

#### ●国際スポーツ大会等の開催地・合宿地としての誘致

##### 国際スポーツ大会等の開催地としての取り組み

- ・博多の森陸上競技場及びレベルファイブスタジアムの改修
- ・ラグビーワールドカップ 2019 福岡開催推進委員会事務局の設置
- ・国際水泳連盟及び日本水泳連盟など関係団体との協議及び大会スキームの検討
- ・世界フィギュアスケート国別対抗戦 2019 の招致・開催決定

##### 国際スポーツ大会等の合宿地としての取り組み

- ・東京 2020 オリンピックの事前合宿として、ノルウェーオリンピック委員会の視察対応
- ・平昌オリンピックに個人出場するロシアフィギュアスケートペアチームの事前合宿支援

##### 総合体育館整備の推進 <再掲 1 - 5>

- ・H30 年 12 月の開館に向けて総合体育館建設工事を継続

#### ●プロスポーツの振興

##### 福岡を拠点としたプロスポーツチームに触れる機会づくり

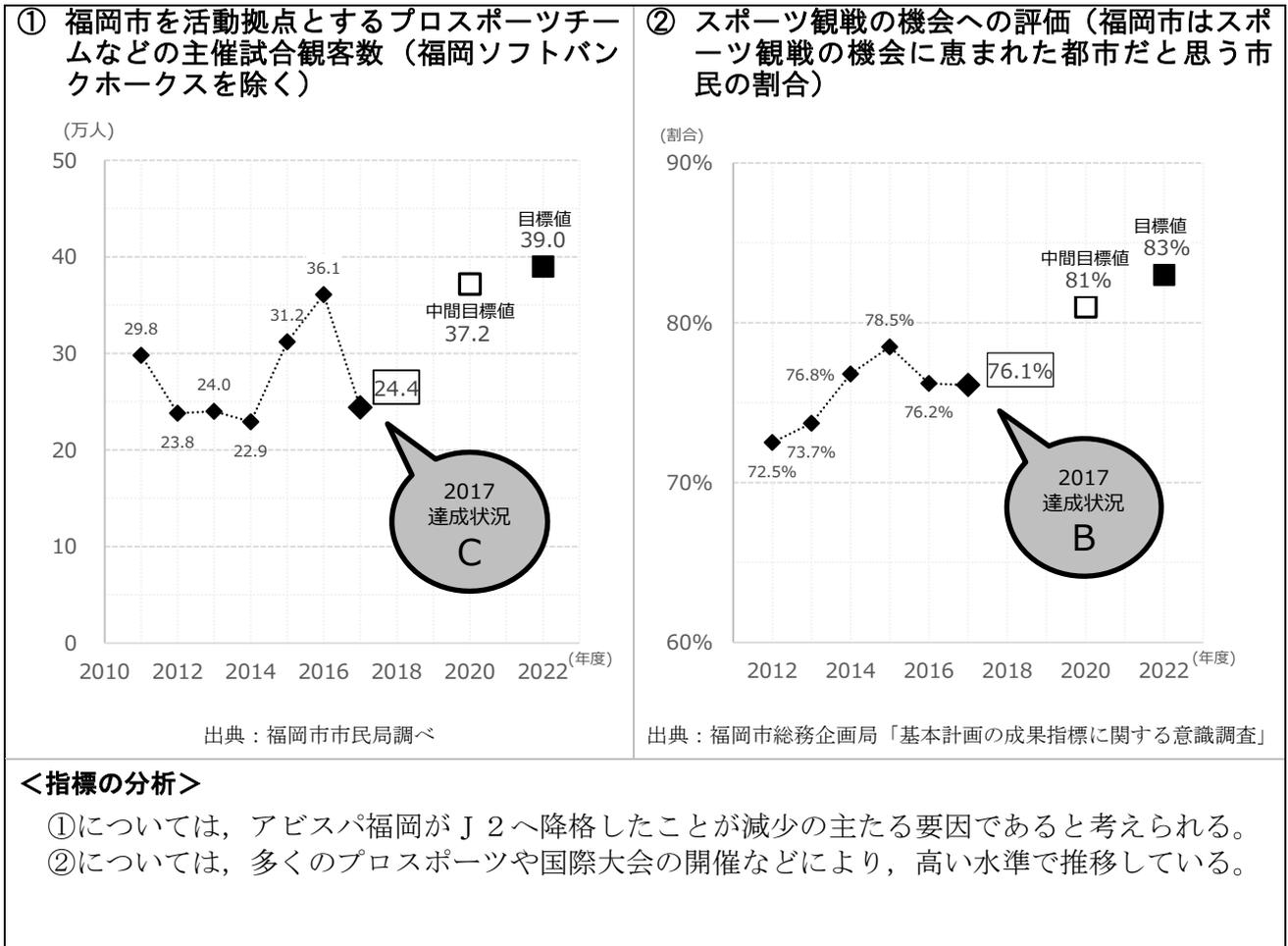
★アビスパ福岡によるサッカー教室の開催件数 H28n : 100 件 → H29n : 102 件

- ・観戦招待事業 H28n : 2 件 → H29n : 3 件
- ・心の教育プロジェクト H28n : 20 件 → H29n : 20 件
- ・スポーツ大会等広告看板掲出 H28n : 21 件 → H29n : 21 件

##### 大相撲九州場所等に触れる機会づくり

- ・大相撲九州場所の支援として、街路灯バナーの掲出等を実施
- ・市内小・中・特別支援学校の観戦招待事業を実施 H28n : 25 校 → H29n : 25 校
- ・こども観戦招待事業を新たに実施 H29n : 285 人

## 2 成果指標等の動向



## 3 施策の評価

○：概ね順調	[参考]前年度 ○：概ね順調
--------	-------------------

#### 4 取組の進捗状況・課題と今後の方向性

##### ●国際スポーツ大会等の開催地・合宿地としての誘致

国際スポーツ大会等の開催地としての取組み	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年に開催される日本陸上競技選手権大会については、会場となる博多の森陸上競技場の改修や備品調達を実施。</li> <li>・ラグビーワールドカップ2019については、ラグビーワールドカップ2019福岡開催推進委員会事務局を設置（H29.4）したほか、会場となるレベルファイブスタジアムにおいて、観客席の個室化、電光掲示板の大型ビジョン化、照明の改良等開催に必要な改修を実施。</li> </ul> <p><b>【地方創生推進交付金事業（横展開タイプ）】</b></p> <p>大規模スポーツ大会を契機としたスポーツの振興及び地域の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広域連携事業として申請。申請主体は福岡県であり、福岡市は連携自治体の1つとして参画する体制。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通、警備、医療、防災、観光等に関する調査と計画策定</li> <li>・推進委員会開催・事務局運営などを通じた関連団体の連携強化</li> <li>・プロモーションツール制作、ラグビー普及活動、サポーター会員の募集、満員プロジェクト等関連イベントの開催</li> </ul> </li> <li>*重要業績評価指数（KPI）             <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンプの受入やホストシティ・タウンの取組みを行う市町村数 H29n 目標値：13件 → 実績値：集計中</li> <li>・福岡県障害者体育大会の登録者数 H29n 目標値：831人 → 実績値：集計中</li> <li>・NPO・ボランティアと県との協働事業数 H29n 目標値：186事業 → 実績値：集計中</li> </ul> </li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年に開催される世界水泳選手権福岡大会の開催に向けて、第19回世界水泳選手権2021福岡大会準備委員会を設置（H29.3）。H29nは国際水泳連盟及び日本水泳連盟など関係団体との協議及び大会スキームの検討を行った。</li> <li>・市民スポーツフェスタにおいて、大規模国際スポーツ大会のPRブースの設置やトップアスリートとふれあえる機会を創出（H29.10）。</li> <li>・世界フィギュアスケート国別対抗戦2019の招致・開催決定（H29.9）。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規国際スポーツ大会等の開催に関する情報収集が困難。</li> <li>・既存の競技施設については、老朽化や大規模な国際スポーツ大会の開催基準に満たないものがある。</li> <li>・市民に夢や希望を与え、青少年の健全育成や市民スポーツの振興に寄与するため、トップレベルの競技を観る機会だけでなく、実際にスポーツを体験する機会の提供も必要。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規の国際スポーツ大会や全国レベルのスポーツ大会について、各種競技団体やパートナー都市協定を締結したJOCと連携して招致を検討。</li> <li>・2019年に開催されるラグビーワールドカップや日本陸上競技選手権大会の開催に向けて、引き続き、会場となるレベルファイブスタジアム等の改修を進めていく。また、世界水泳選手権での活用に向けて、総合西市民プールの改修にかかる実施設計を行う。</li> <li>・ラグビーワールドカップ2019福岡開催推進委員会事務局において、大会開催に向けて各種計画の策定やリハーサルの実施、ラグビーワールドカップ2019組織委員会と連携して大会ボランティアの募集・研修等を行うほか、節目イベントやパブリックビューイングの実施などの気運醸成事業を推進していく。</li> <li>・2021年開催の世界水泳選手権福岡大会については、組織委員会を立ち上げ、関係機関と協議を行いながら、大会開催に向けた企画、調整、準備を進めるとともに、大会周知や気運醸成を行っていく。</li> <li>・市民が高いレベルのスポーツに触れ、自らもスポーツを体験できる機会を創出するため、国際スポーツ大会などに参加するトップアスリートとの交流会等の企画を推進していく。</li> </ul>

**国際スポーツ大会等の合宿地としての取組み**

進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ H27.8 に中国北京で行われた世界陸上選手権大会の事前合宿地として、イギリス陸上競技連盟を受け入れた (H27.8)。</li> <li>・ 東京 2020 オリンピック・パラリンピックの事前合宿地として、ノルウェーオリンピック委員会の視察を受け入れた (H28.3, H29.8)。</li> <li>・ 平昌オリンピックに個人出場されたロシアフィギュアスケートペアチームの事前合宿の支援を行った (H30.1)。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会に関し、どのように気運醸成を図るか。</li> <li>・ 各種競技の事前合宿については、それぞれの競技団体、スポンサー企業等との恒常的な関係構築と情報収集が重要であるが、自治体単独ではそうした取組みが困難。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前合宿を成功させ、福岡市の評価を高めることが、新たな事前合宿の招致に繋がるため、地元企業・団体等と連携し、受け入れ準備を丁寧に進める。今後、スポーツ庁や、JOC その他の団体等と連携し、各種競技団体やスポーツ大会に関する情報収集に努める。</li> </ul>

**総合体育館整備の推進 <再掲 1 - 5>**

進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総合体育館の整備については、PFI 事業契約に基づき、設計を行い、H29.2 から建設工事に着手。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特になし。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ H30 年 12 月の開館に向けて着実に整備及び開館準備を進めていく。</li> </ul>

●プロスポーツの振興

福岡を拠点としたプロスポーツチームに触れる機会づくり

<p>進捗</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福岡市に拠点を置く、アビスパ福岡、福岡ソフトバンクホークス、ライジングゼファーフクオカ等と協力して、市民や選手・監督・コーチが触れ合うスポーツイベント（スタージャンプ、スポーツフェスタ）の取り組みを支援している。</li> <li>・アビスパ福岡と協力して、子どもから高齢者までを対象としたサッカー教室等の実施や市民の観戦招待事業等を通じて、市民がアビスパに触れる機会を創出している。</li> </ul> <p>*サッカー教室の開催件数 H28n:100件 → H29n:102件 (内訳)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親子サッカー教室（小学生とその保護者を対象とした選手・コーチによる教室） H28n：4件 → H29n：7件</li> <li>・少年少女サッカー教室（幼児、小中学生の団体を対象としたコーチによるサッカー指導） H28n：66件 → H29n：66件</li> <li>・アビスパ健康教室（およそ60歳以上を対象とした運動啓発教室） H28n：15件 → H29n：15件</li> <li>・ブラインドサッカー教室（小学生以上を対象としたコーチ及びブラインドサッカー選手による体験教室） H28n：15件 → H29n：14件</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>*観戦招待事業（小中高生とその保護者をホームゲームに招待） H28n：2件 → H29n：3件</li> <li>*心の教育プロジェクト（市内小学校での選手・コーチによる特別授業） H28n：20件 → H29n：20件</li> <li>*スポーツ大会等広告看板掲出（ホームゲーム時に掲出） H28n：21件 → H29n：21件</li> </ul>
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アビスパ福岡、福岡ソフトバンクホークス、ライジングゼファーフクオカなど多彩なプロスポーツチーム等が活動していることから、スポーツ観戦環境は恵まれているが、各チームが取り組む地域に根差した取り組みなどについては広く認知されていないものもあり、その活動の周知が不十分である。</li> </ul>
<p>今後</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の認知度を高めるため、プロスポーツチームの試合情報や地域に根差す取り組みについて、広報活動を支援する。</li> <li>・各スポーツチームが取り組んでいる市民とのスポーツ交流活動を支援する。</li> </ul>

大相撲九州場所等に触れる機会づくり

<p>進捗</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大相撲九州場所の支援として、街路灯バナーの掲出、CM映像放映等のPRを実施。</li> <li>・市内の小中特別支援学校を対象とした観戦招待事業に加え、新たにこども観戦招待事業を実施した。</li> </ul>
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観戦招待事業については、市内の小中特別支援学校へ広く募集の案内を行っているものの、応募上限を設けており、児童生徒の少ない小規模な学校などに応募が偏っている現実がある。</li> <li>・こども観戦招待事業については、招待券の取扱い方法など引き続き日本相撲協会と協議していく必要がある。</li> </ul>
<p>今後</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観戦招待事業及びこども観戦招待事業について、今後、より多くの児童・生徒や市民が観戦機会を得られるよう、参加者や市民のニーズを踏まえて、日本相撲協会や福岡コンベンションセンター等関係団体と連携して検討を進めていく。</li> </ul>



## 施策 5 - 6 国内外への戦略的なプロモーションの推進

### 1 施策推進に向けた平成 29 年度の実績（主な進捗状況） ★は政策推進プランに掲げる目標値等

#### ●シティプロモーションの推進

##### 市場ニーズ分析等による効果的なシティプロモーションの推進

・外国人入国者数 H28n : 257 万人 → H29n : 298 万人

★海外現地プロモーション回数 H28n : 1 回 → H29n : 1 回

・情報発信・招請事業回数 H28n : 19 回 → H29n : 20 回

##### フィルムコミッションによるシティプロモーション

・海外作品撮影支援件数 H28n : 11 件 → H29n : 12 件

#### ●クルーズ客拡大への取り組み

##### 多様なクルーズの誘致

★海外コンベンションへの参加回数 H28n : 2 回 → H29n : 2 回

##### クルーズ船の受入体制の整備

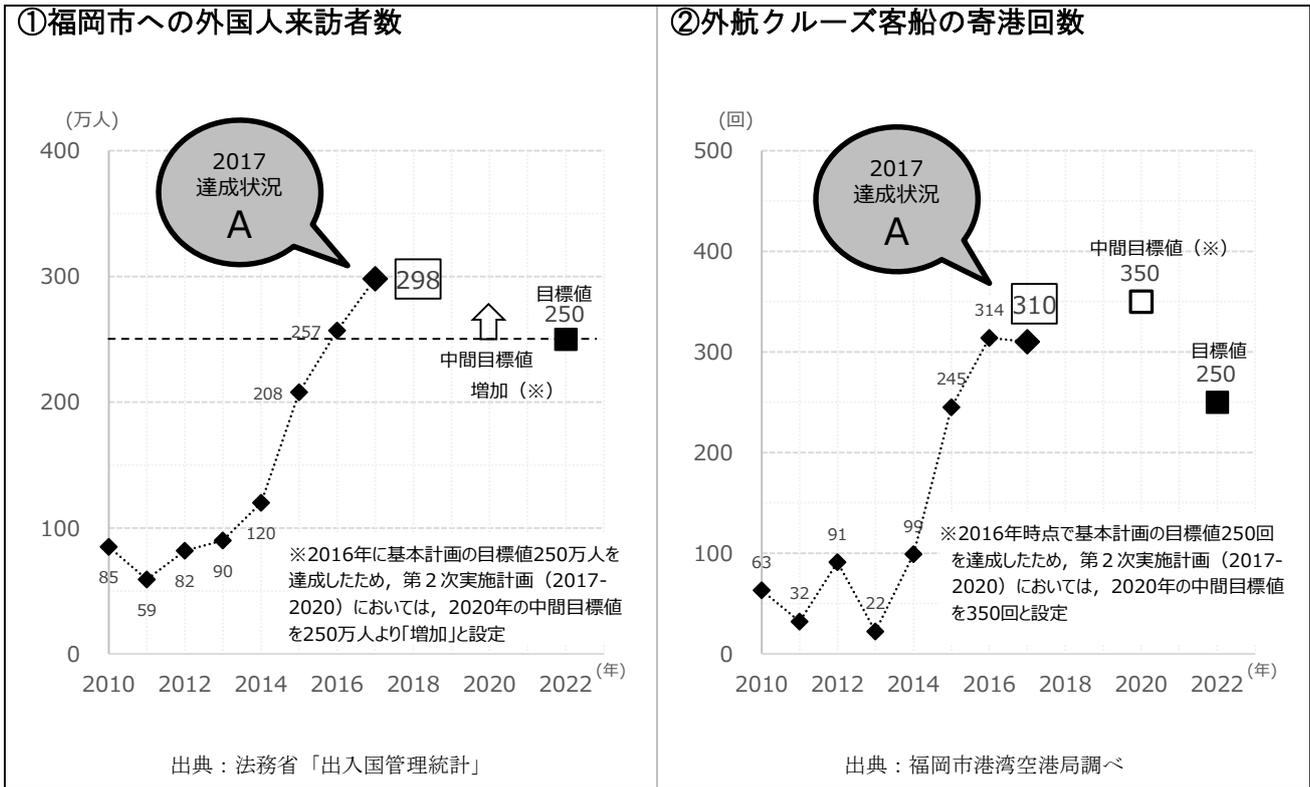
・クルーズ船寄港回数 H28 : 328 回 → H29 : 326 回

##### クルーズ客の受入体制の整備

・外国航路船舶乗降人員数（不定期） H28 : 169.3 万人 → H29 : 168.4 万人

・樋井川河畔緑道観光バス駐車場の利用台数 H29n : 5,777 台 (H29.6.1 供用開始)

2 成果指標等の動向



<指標の分析>

指標①は、増加となっており、これはLCC普及や円安、ビザ緩和等により訪日旅行需要が好調であり、入国者数が最も多い韓国をはじめ、台湾、香港などの東アジアやベトナム、フィリピンなどの東南アジアを中心に、入国者数が前年と比べて増えているためである。

指標②は、微減となっており、これは2017年中、中央ふ頭のクルーズ機能強化のために岸壁延伸工事を行っており、着岸できなかった日が50日程度生じたためである。

3 施策の評価

◎：順調	[参考]前年度 ◎：順調
------	-----------------

4 取組の進捗状況・課題と今後の方向性

●シティプロモーションの推進

市場ニーズ分析等による効果的なシティプロモーションの推進	
<b>進捗</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内では3大都市圏，海外では直行便の就航するアジアなどの有望市場を主なターゲットとして，国際観光展等への出展や観光説明会の開催など，本市の事業に加え観光関係協議会等において広域連携によるプロモーション活動を実施。               <ul style="list-style-type: none"> <li>*観光展・説明会等：16件</li> </ul> </li> <li>・福岡の認知度向上や旅行商品の造成促進を図るため，海外メディア等による情報発信や旅行会社等の招請を実施。               <ul style="list-style-type: none"> <li>*外国人入国者数 H28n：257万人 → H29n：298万人</li> <li>*海外現地プロモーション回数 H28n：1回 → H29n：1回</li> <li>*情報発信・招請事業回数 H28n：19回 → H29n：20回</li> </ul> </li> </ul> <p>【地方創生推進交付金事業（横展開タイプ）】</p> <p>福岡市・九州離島広域連携事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福岡市と直行便で結ばれた九州の離島3市2町と福岡市で構成する福岡市・九州離島広域連携協議会で，広域観光戦略策定や国内外に向けた共同プロモーション，人材育成等を行うことで観光客増を図り，地域活性化に繋げていく取組みを進めた。               <ul style="list-style-type: none"> <li>*重要業績評価指標（KPI）                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・離島航空路・航路利用者数（福岡からの直行便のみの降客数，1月～12月） H29n 目標値：562,600人 → 実績値：561,586人</li> <li>・外国人延宿泊者数（福岡市を除く，1月～12月） H29n 目標値：150,300人 → 実績値：178,489人</li> <li>※協議会構成自治体の屋久島町の実績値が未確定のため見込値（10月確定予定）</li> <li>・本事業で造成する旅行商品（福岡経由または福岡発離島行き）の利用者数 H29n 目標値：400人 → 実績値：470人</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
<b>課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・船舶観光上陸許可によるクルーズ船での入国者を除き，外国人入国者の8割以上を占める韓国・台湾などの東アジアに加えて，直行便が就航している東南アジアなど，より多様な国・地域からの誘客を図る必要がある。</li> <li>・歴史・文化・自然を活かすエリア観光の推進の観点から，効果的なプロモーションが必要である。</li> </ul>
<b>今後</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・韓国・中国に加え，台湾・香港や，旅行需要が大きく伸びている東南アジアなどに対して，引き続きプロモーション活動を実施。また，日本政府観光局等，関係団体からの情報収集に加え，福岡観光コンベンションビューローや九州の各自治体等で構成する各種協議会とも連携して，ターゲットとなる市場のニーズを捉え，効果的なプロモーションを計画的に実施。</li> </ul>

**フィルムコミッションによるシティプロモーション**

<p><b>進捗</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福岡フィルムコミッションについて、海外作品 12 件の撮影支援を行った。 *海外作品撮影支援件数 H28n : 11 件 → H29n : 12 件</li> <li>・また、アジアフォーカス・福岡国際映画祭のゲストに対してロケ候補地を案内しプロモーションを行ったほか、釜山などの国際映画祭に合わせて開催される海外の見本市等において撮影誘致活動を実施。</li> <li>・国内では、映画「君の隣臓をたべたい (H29.7)」を活用したプロモーション活動を実施。</li> <li>・海外に向けては、福岡の地名を冠した韓国映画「福岡」を誘致し、市内撮影を支援した。</li> </ul>
<p><b>課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外で話題となるような、福岡を舞台とした映画・テレビドラマ等の作品が不足している。</li> <li>・撮影環境、慣習の違いから、海外の撮影隊を受け入れる十分なノウハウを持つ事業者が少ない。</li> <li>・福岡で撮影された映画等のロケ地について、情報発信が不足している。</li> </ul>
<p><b>今後</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福岡フィルムコミッションにおいては、アジアフォーカス・福岡国際映画祭を活用した撮影誘致活動やインターネットなどを活用した効果的なプロモーションを実施。</li> <li>・海外からの撮影隊に地元映像関係者が参画する場を提供することで、ノウハウの蓄積、人材育成につなげ、海外からの撮影受け入れ体制の充実に取り組む。</li> <li>・支援作品の公開等に合わせ、ロケ地や作品を活用した観光PRやシティプロモーションを行う。</li> </ul>

**●クルーズ客拡大への取組み**

**多様なクルーズの誘致**

<p><b>進捗</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内外の船社・代理店訪問や海外コンベンションへの参加を通じた誘致活動、見学会・セミナー、出前講座等を通じた博多港発着クルーズ振興を実施。</li> <li>・外国船による博多港発着定期定点クルーズを H29 に 32 回実施。</li> <li>・福岡市及び日本におけるクルーズ振興やアジアのクルーズ市場の持続的発展を目的として、第 4 回福岡クルーズ会議を開催 (H30.1)。 *海外コンベンションへの参加回数 H28n : 2 回 → H29n : 2 回</li> <li>・上海からの提案を受け、両港の連携に関する覚書を、H30.1 に締結した。</li> </ul>
<p><b>課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・急成長するアジアクルーズ市場を背景に、全国的にクルーズ船誘致活動が活発化しており、クルーズ船社から博多港が寄港港及び発着港として選ばれるように、より活発な誘致活動とともに、上海との覚書に基づく連携事項の早期実現が必要。</li> </ul>
<p><b>今後</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アジア以外の地域からのクルーズなど多様なクルーズを誘致するとともに、船社への働きかけや上海等他港との連携により、博多港発着クルーズの更なる振興を図る。</li> <li>・FIT (訪日外国人個人旅行) の振興などによる寄港地観光ツアーの多様化に取り組む。</li> </ul>

**クルーズ船の受入体制の整備**

<p><b>進捗</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クルーズ船の大型化や寄港回数の増加に対応するため、中央ふ頭西側において、世界最大級のクルーズ船を受入れ可能とする岸壁の延伸を進めるとともに、バス待機場スペースをはじめとした、クルーズ受入の用地確保のため、中央ふ頭においてクリアランスを進めた。 *クルーズ船寄港回数 H28 : 328 回 → H29 : 326 回</li> </ul>
<p><b>課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クルーズ船寄港回数の急増や船の大型化による港湾施設の不足。 *クルーズ船寄港回数 H25 : 38 回, H26 : 115 回, H27 : 259 回, H28 : 328 回, H29 : 326 回。 うち、外航クルーズ船寄港回数 : H25 : 22 回, H26 : 99 回, H27 : 245 回, H28 : 314 回, H29 : 310 回。</li> </ul>
<p><b>今後</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拡大を続けるアジアクルーズへの需要に対応できるよう、岸壁の延伸などの港周辺環境の整備・強化を図る。</li> </ul>

<b>クルーズ客の受入体制の整備</b>	
<b>進捗</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光地周辺等における活用可能性のある公有地等の調査・検討を行い、実施。</li> <li>・旅行会社と観光施設、商業施設、飲食店等とのマッチングを行うクルーズ商談会を開催。</li> <li>・福岡タワー周辺における観光バス駐車場の供用、及びショットガン方式の運用開始。  <ul style="list-style-type: none"> <li>*樋井川河畔緑道観光バス駐車場の利用台数 H29n : 5,777 台 (H29.6.1 供用開始)</li> </ul> </li> <li>・市営博多駐車場跡地における観光バスを含めたバス乗降場の確保について、施設運営事業者など関係者と運用方法等の協議・調整を行った。  <ul style="list-style-type: none"> <li>*外国航路船舶乗降人員数 (不定期) H28 : 169.3 万人 → H29 : 168.4 万人</li> </ul> </li> <li>・クルーズ客の円滑な受入や利便性・快適性の向上を目的とした、可動式通路を、中央ふ頭に続き箱崎ふ頭にも導入。*H30.3 供用開始</li> <li>・クルーズ客等の利便性の向上やにぎわい創出のため、中央ふ頭クルーズセンター前面の交通広場東側に利便施設を設置。*H30.3 供用開始</li> </ul>
<b>課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クルーズ客のツアーが一部の商業施設や観光地に集中しているため、市内で交通混雑が発生。</li> <li>・観光地周辺等における恒久的な観光バス駐車場等の整備においては、十分な広さを有した適地の確保が困難。</li> </ul>
<b>今後</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光バス駐車場等の確保に向けた活用可能性のある公有地等の調査・検討を行う。</li> <li>・寄港地観光手配予約システムの活用などによる訪問先・時間の分散化に取り組む。</li> <li>・クルーズ船観光バスによる交通混雑については、博多港クルーズ船受入関係者協議会や県警などとも連携し、対策に取り組む。</li> <li>・税関の検査体制強化のため、箱崎ふ頭に検査施設を設置する。</li> <li>・受入業務の更なる効率化を図るため、外部資源の効果的な活用を検討する。</li> </ul>

